

第9回 政策情報学フォーラム テーマ:「政策教育と価値の創出」

公共政策学等の教育において提供される(べき)情報とは如何なるものでしょうか?
公共政策学等の教育を通じて生み出される(べき)情報とは如何なるものでしょうか?

開催日時: 2014年7月5日(土) 14:00~16:50

開催会場: 立命館東京キャンパス

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 1-7-12 サピアタワー8階3号、4号教室

3階までエスカレーターで上がり、3階受付で入館手続きをしたのちエレベーターで8階までおあがりください。

交通アクセス <http://www.ritsumei.ac.jp/tokyocampus/access/>

テーマのねらい: テーマ:「政策教育と価値の創出」

近年、多くの大学・大学院で「政策」という名を含む学部(学科)・研究科が創設されています。それらの学部(学科)・研究科では、政策に関わる学問(公共政策学等)の教育が行われています。一般に教育においては、何らかの情報(知識等)が提供され、そこから新たな情報(知識等)が学生や教員等のなかで生まれてくることが期待されています。では、公共政策学等の教育において提供される(べき)情報とは如何なるものでしょうか?そして、公共政策学等の教育を通じて生み出される(べき)情報とは如何なるものでしょうか?これらの問いに取り組むことは、より良き政策の実現や民主化の実現に大きく寄与すると同時に、政策に関する情報を産出する活動の一つである政策研究のあり方を模索するうえでも重要であると考えられます。そこで、今回のフォーラムでは、公共政策学等の学問的アイデンティティを探求し、公共政策学等の教育に学術的にも実践的にも関わってこられた足立幸男先生に基調講演を行っていただき、こうした問題について深く考えていきたいと考えております。

プログラム: 14:00-14:20 歓迎挨拶・フォーラム趣旨説明
政策情報学会会長 中道壽一

14:20-15:20 ご講演
足立幸男(京都大学名誉教授, 京都産業大学客員(専任)教授, 元・日本公共政策学会会長)

15:20-15:30 休憩

15:30-16:30 討論

16:30-16:45 まとめ

16:45-16:50 閉会の辞

17:00-18:30 懇親会(サピアタワー内「パピラノ」)

※参加ご希望の方は、申込時に「懇親会出席」と明記してください

ご講演概要: わが国では、知的・実践的営為としての政策分析は、残念ながら、いまだ一つのプロフェッションとして確立されてはいない。その活用もごく限られたレベルに留まっており、政策過程への合理的思考の導入及びそのことを通しての「民主主義の近視眼」(myopia of democracy)の監視・矯正という本来のミッションをほとんど果たし得ていない。政策分析の成熟と普及・活用を妨げ遅らせてきた主要な要因が政府セクター、市場セクター、市民セクターのいずれにおいてもプロフェッションとしての政策分析に対する理解が決定的に欠如していること—各セクターが公共問題にかかる基本的なスタンスを選択・決定するに際して政策分析者にアドバイスを求める必要があるとの認識をほとんどもっていないこと、内閣や議会においてさえそうであるということ—にあるとしても、政策分析者と政策教育者もまたその責任の一端を免れることはできない。政策の決定や実施・評価に対してフォーマルな権限と責任を有するアクターや、政策アドボカシーに熱心な団体のリーダーたちをして、

その分析・提言に真摯に耳を傾ける必要があると実感せしめるほどに高品質なアウトプットを、率直に言ってそれほど多く産出してきたわけではないし、そうした能力・資質・スキルを有する人材を育成するための十分な努力をしてきたとも言い難い。クライアントが支持する、クライアントにとってすでに所与の方針となっている政策案の「正当性」を支持し裏付けるような「事実」や情報の収集、統計資料の作成といった類の、補佐的かつ技術的な作業に自らの役割を意図的に限定しようとしてきた「分析屋」も少なくない。

プロフェッションとしての政策分析の社会的・政治的プレゼンスを高め、その活用を促進するためには、それ故、二重の改革が必要になる。一つは、従来の政策分析に欠けていたところのものが何かを謙虚に反省し、知的・実践的営為としての政策分析のレベルアップを図ること、クライアントの単なる「僕」ではなく、政策決定者、政策実施者、各種団体のリーダーにとって耳の痛い「不都合な真実」を告げることでかえって彼らの窮地を救う、そのような信頼できるアドバイザーないしパートナーとしての役割を果たすことができる人材を育成することである。いま一つは、議会における予算の合理的審議と決定を支援するための、行政府から独立した(議会付属の)政策分析専門機関を設置する等、政策分析の実施あるいは活用を政策決定及び政策実施の不可欠の前提として要求ないし義務化するような、一連の制度改革に着手することである。本報告では、わが国においてこれまで実践されてきた政策分析及び政策教育の赤裸々な現実を浮き彫りにし、その主要な問題点ないし課題を列挙・分析することを通して、どうすればそのレベルアップを図ることができるか、その方途について考えたいと思う。

フォーラムの目的: 政策情報学フォーラムの目的は、議論を行う上で時間的制約などがある研究大会などのイベントとは異なり、小規模で政策情報学に関連した様々なテーマを取り扱い、時間をかけた密度の高い議論を行っていくことにあります。また、さまざまな異なる立場の交流と協働の「開かれた対話と創造の場」として構想されており、現実のさまざまな政策問題を探求、検討し、実際にその解決策を提示しながら、社会の持続的発展に寄与することを狙いとしております。

主催: 政策情報学会

コーディネータ: 松田憲忠(青山学院大学准教授)

参加申込期限: 6月30日(月)

参加申し込み先: 政策情報学会事務局
E-mail でお申し込みください。懇親会にもご参加の方は、「懇親会出席」と明記してください。
会場はビルのセキュリティ上、事前登録者のみしか入館できませんのでご注意ください。
〒603-8577 京都府京都市北区等持院北町 56-1 立命館大学仲上健一 研究室内
E-mail to: API-jimu@cuc.ac.jp

